



2018年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.13th.2018



CONTENTS

1 2018年10月期 決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2019年10月期 業績見通し

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- 中期経営計画主要施策の進捗
- 中期経営計画の目標

2018年10月期 決算の概況

光学機器用レンズ材の需要増加や「ナノセラム™」の販売進展により、前期比増収増益

光事業

- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプの需要減少が続いたものの、レンズ交換式タイプではミラーレス機の需要が増加
- 売上高は、デジタルカメラやプロジェクターなど光学機器の性能が向上する中、これらに適した新製品やレンズ加工品の販売に努めたことから、前期比増収
- 損益は、原料価格の上昇や業務委託費用の増加が見られたものの、生産効率の向上や原価低減活動を推進したことなどから営業増益

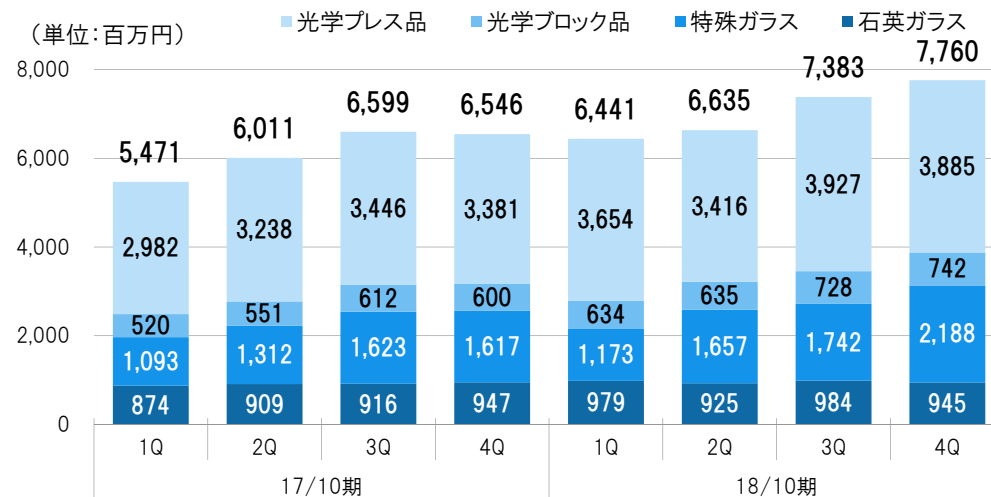
エレクトロニクス事業

- 露光装置は、FPD向けの一部で弱めの動きが見られたものの、半導体向けは堅調を維持
- 売上高は、極低膨張ガラスセラミックスの販売が減少したものの、耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」の販売が進展したほか、高均質ガラスの販売が増加したことなどから、前期比増収
- 損益は、製品構成が変化する中、拡販に伴う稼働状況の改善などから営業増益

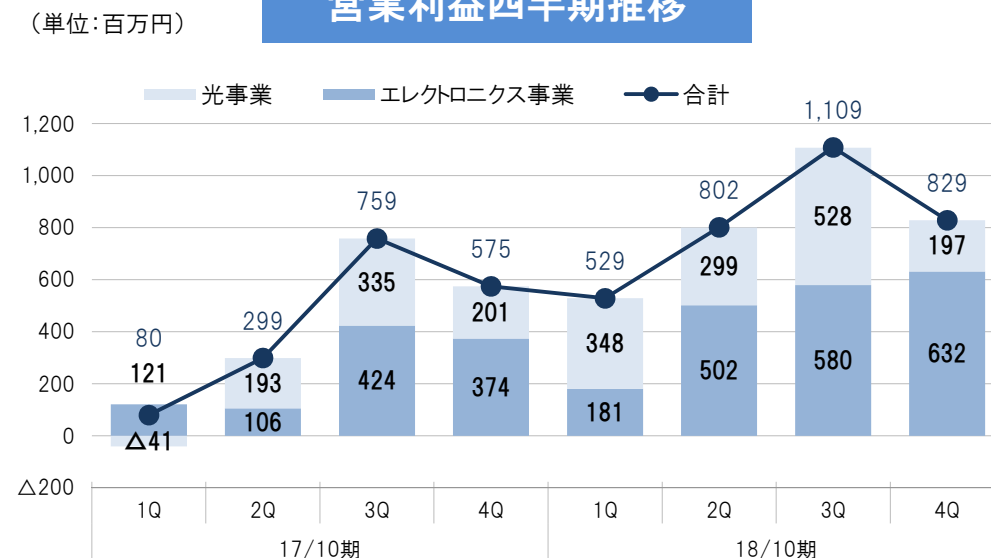
(単位:百万円、%)

	17/10期 通期	18/10期 通期	増減 増減率
売上高	24,628	28,221	3,593 14.6%
営業利益	1,715	3,270	1,555
[営業利益率]	7.0%	11.6%	90.7%
経常利益	2,242	3,705	1,463
[経常利益率]	9.1%	13.1%	65.2%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,513	3,220	1,706
[純利益率]	6.1%	11.4%	112.7%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 112.04 124.46	期中平均 110.46 131.13	
年間配当金 (円)	20.00	30.00	

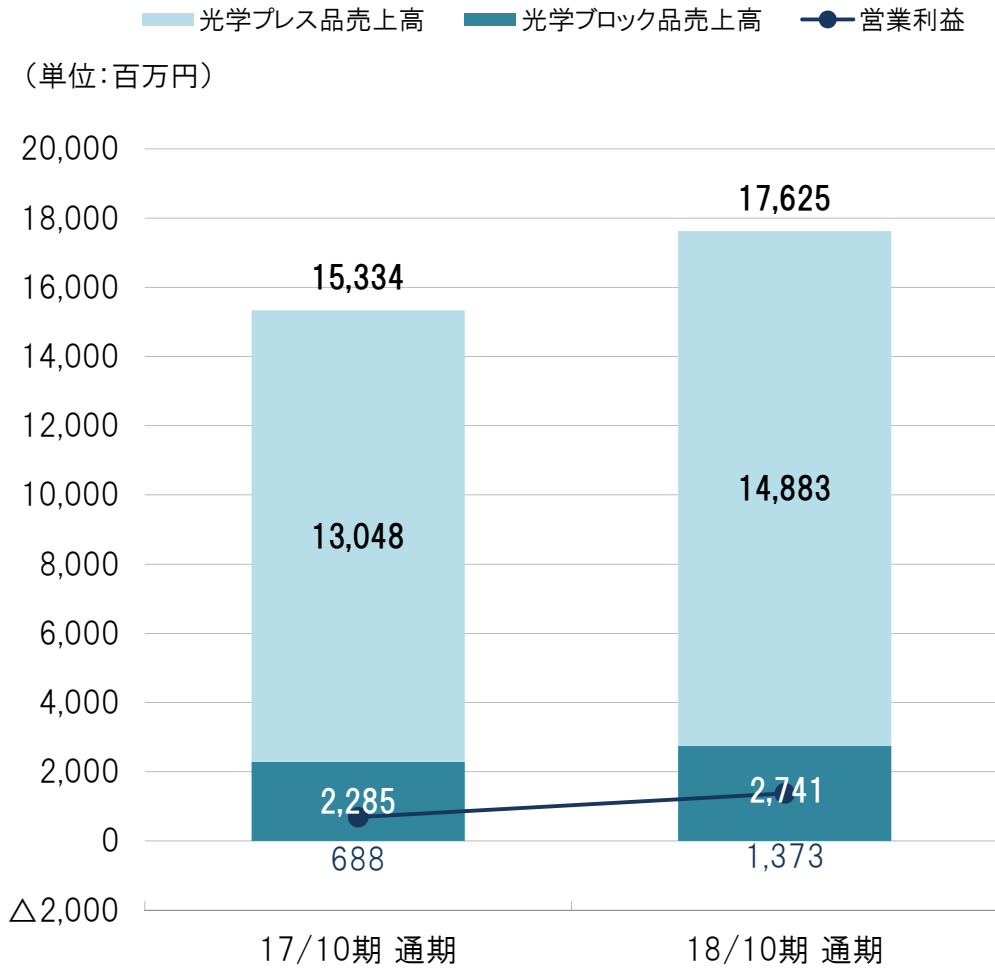
売上高四半期推移



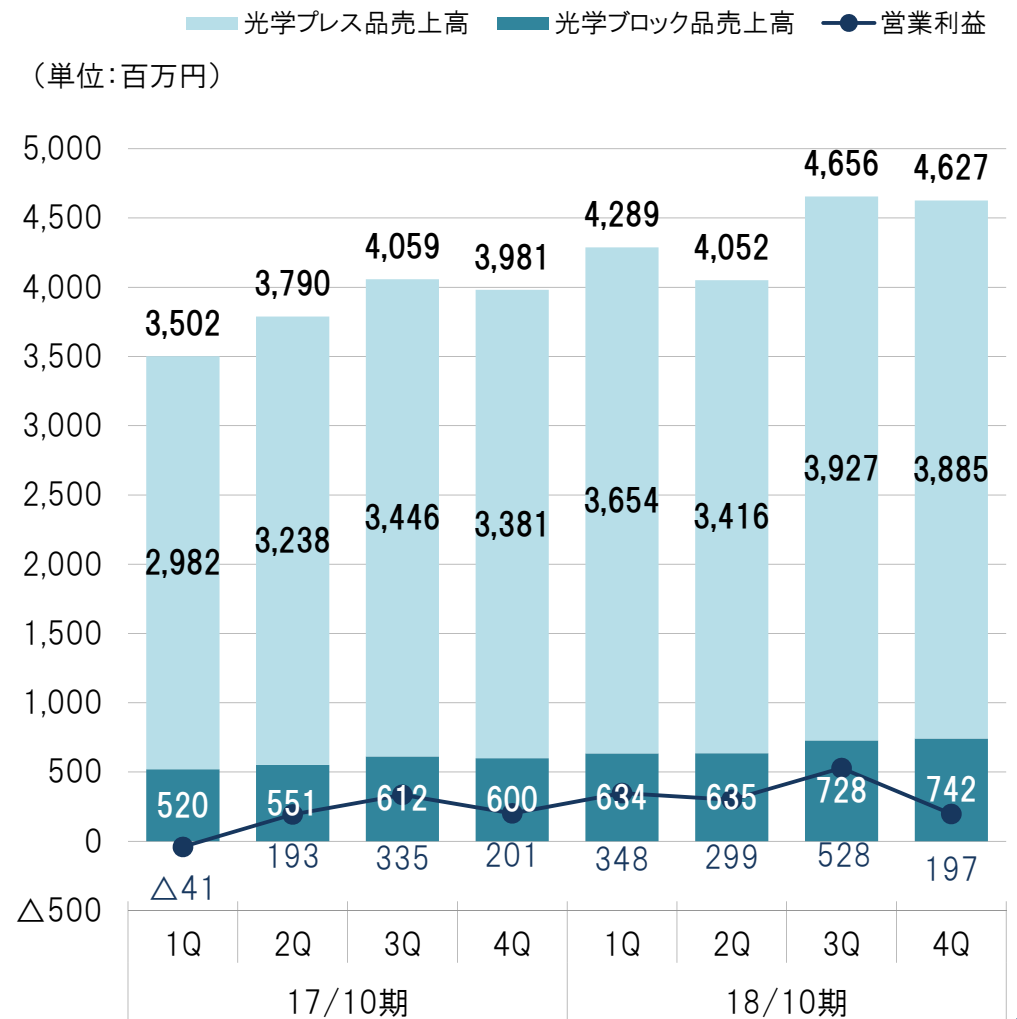
営業利益四半期推移



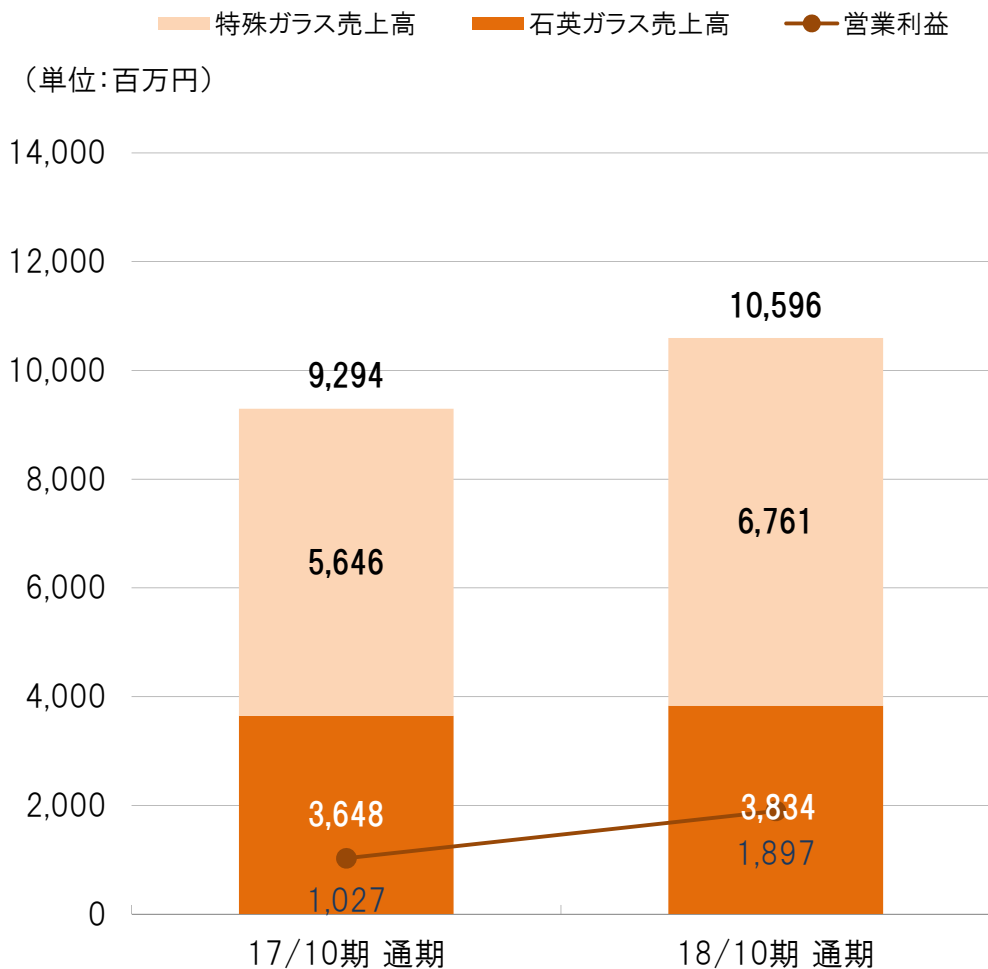
通期対比



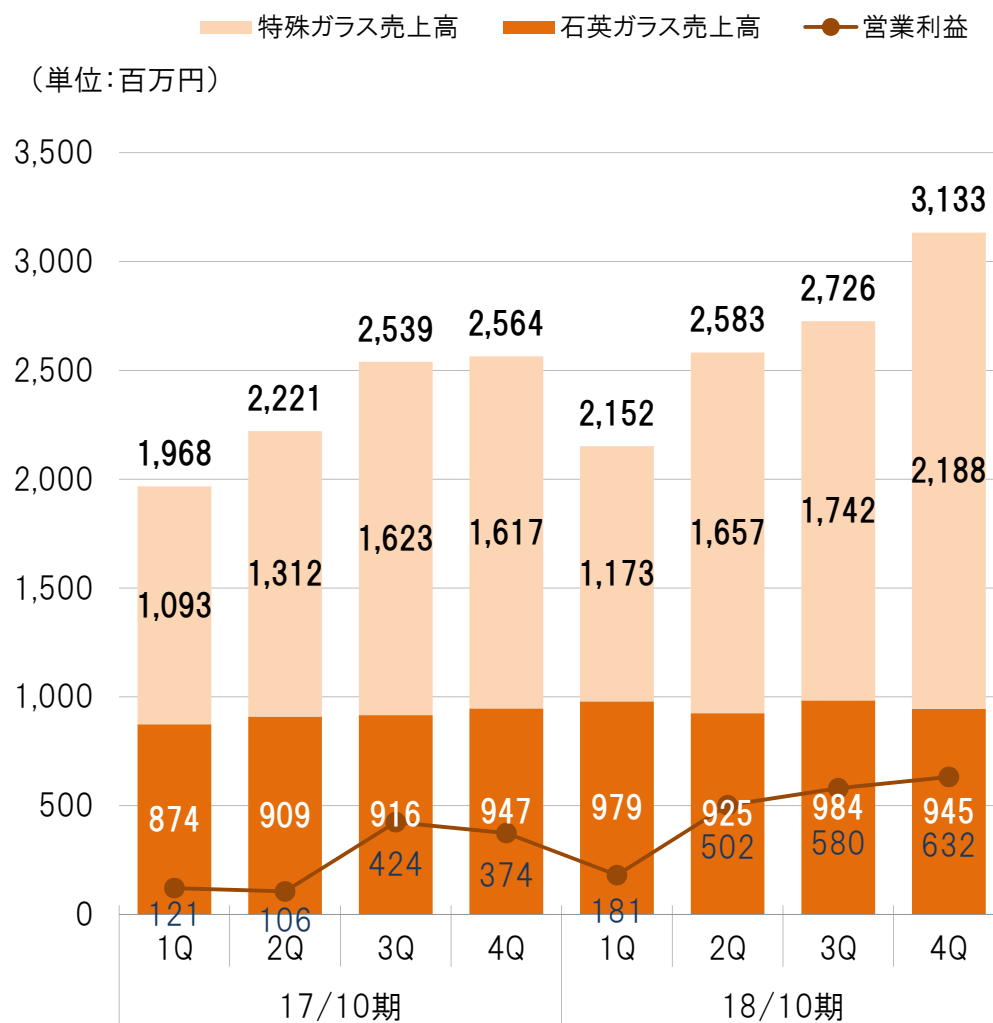
四半期推移



通期対比



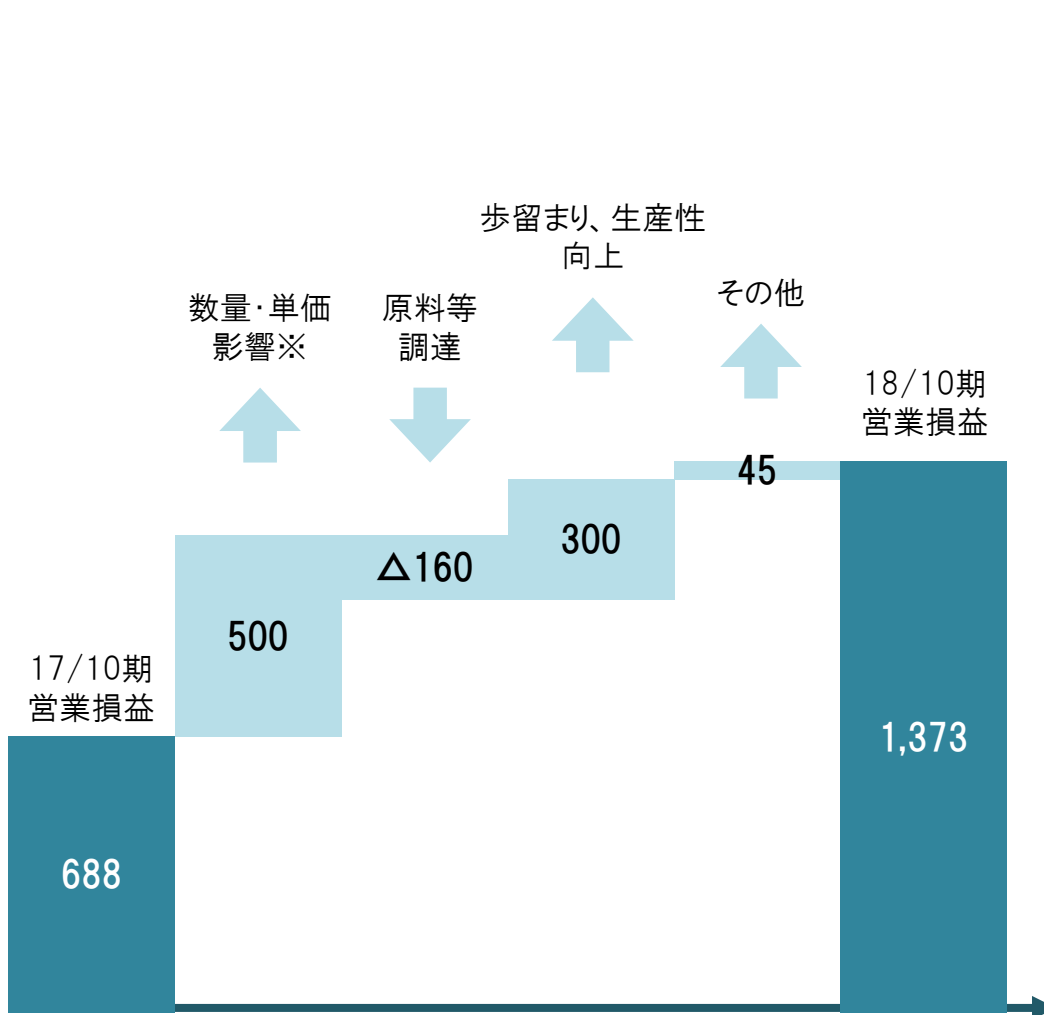
四半期推移



営業損益増減要因

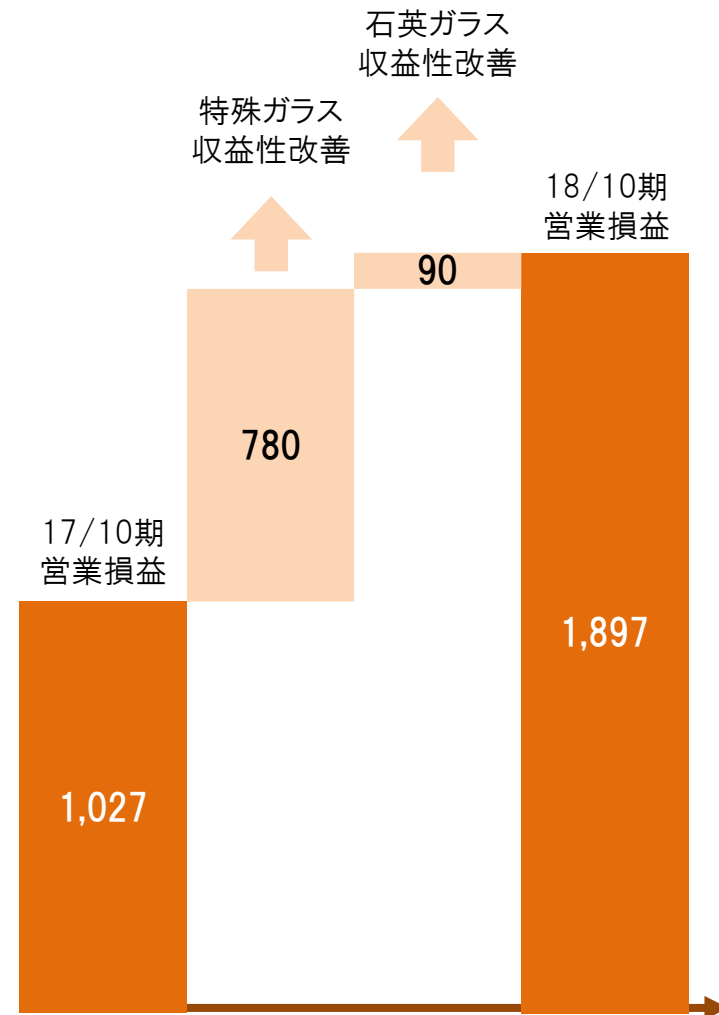
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



※今回より集計方法を見直し、レンズ加工品ビジネスの拡大に伴う費用増加を加味しております

営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純利益	3,705
減価償却費	1,560

投資CF増減主要因

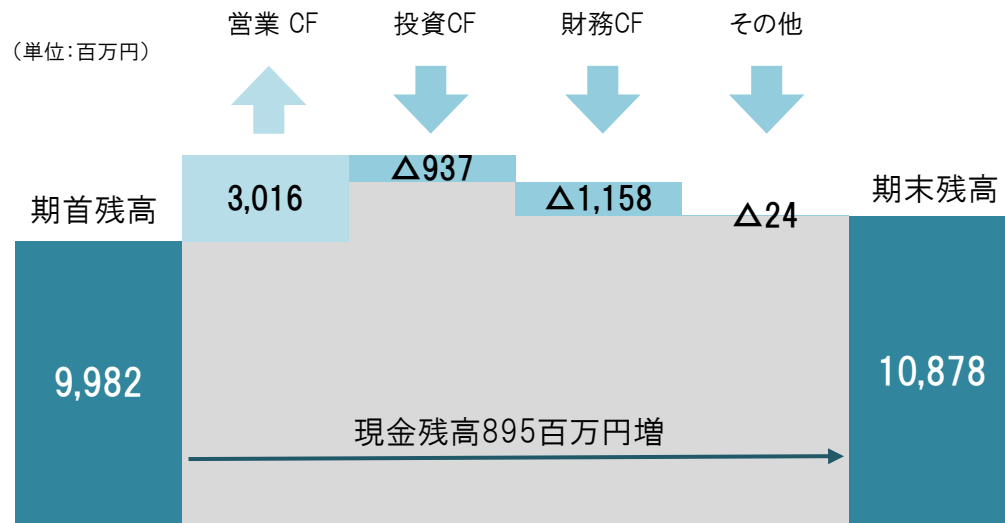
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△1,129
定期預金	460

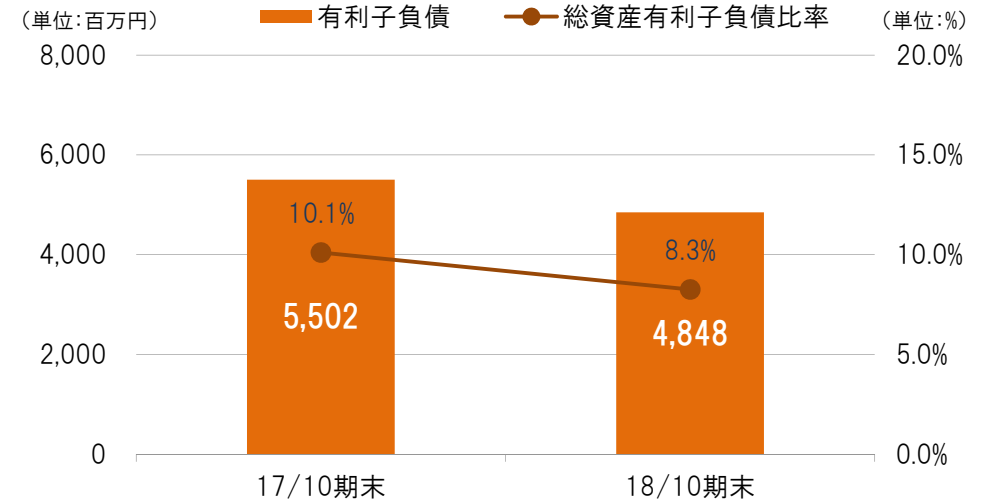
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の返済	△670
配当金	△487



有利子負債

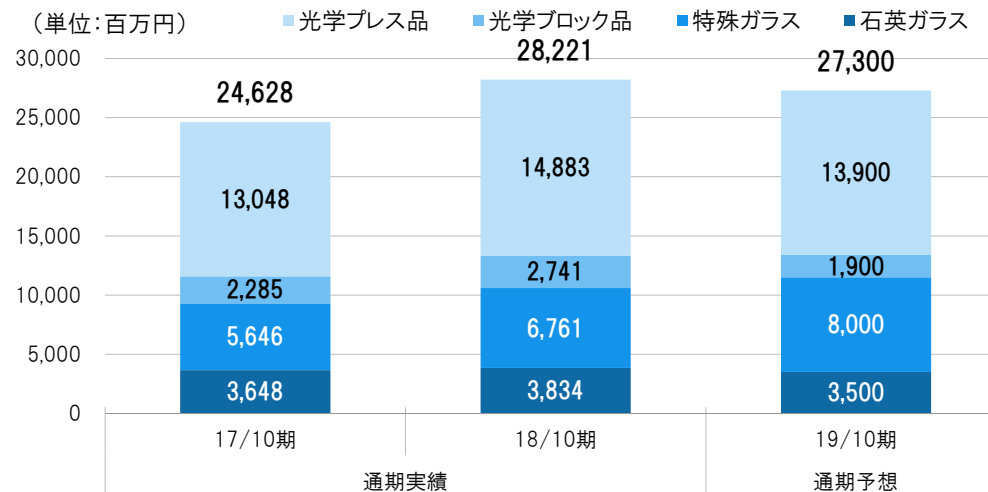


2019年10月期 業績見通し

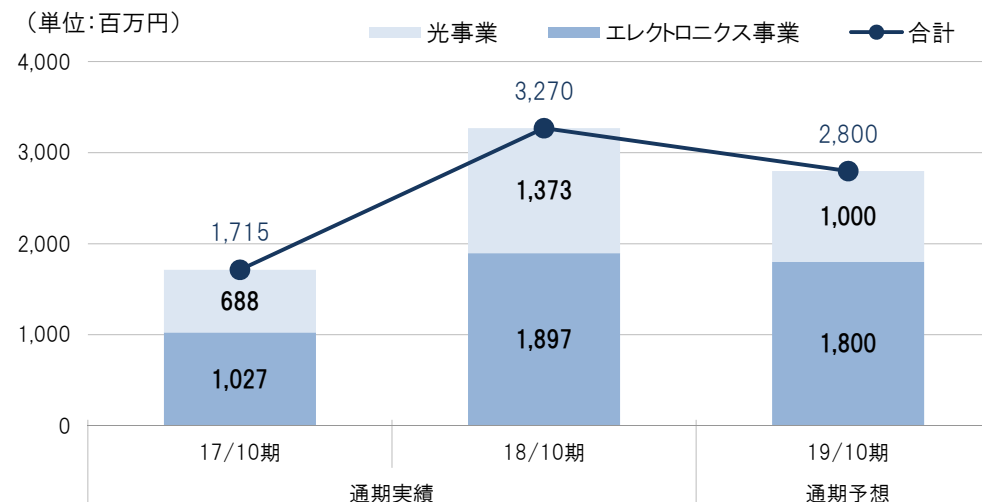
(単位:百万円、%)

	18/10期 通期実績	19/10期 通期予想	増減 増減率	19/10期 上期予想
売上高	28,221	27,300	△921 △3.3%	13,400
営業利益	3,270	2,800	△470	1,350
[営業利益率]	11.6%	10.3%	△14.4%	10.1%
経常利益	3,705	2,900	△805	1,400
[経常利益率]	13.1%	10.6%	△21.7%	10.4%
純利益 (親会社株主に帰属)	3,220	2,000	△1,220	1,000
[純利益率]	11.4%	7.3%	△37.9%	7.5%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 110.46 131.13	期中平均 110.00 125.00		期中平均 110.00 125.00
年間配当金 (円)	30.00	30.00		

売上高内訳



営業利益内訳



お客様の課題への最適なソリューションを提供することで、収益の拡大を図る

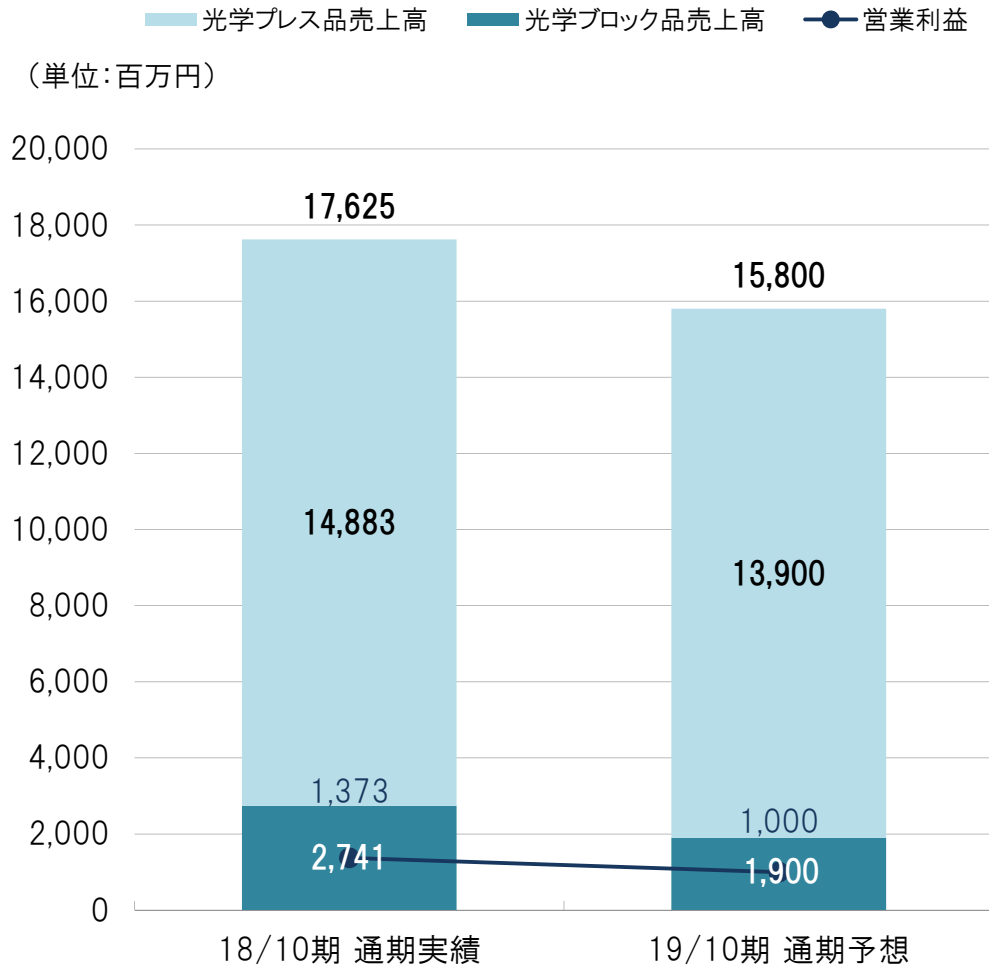
事業環境

- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプの需要減少が続き、レンズ交換式タイプは一眼レフ機からミラーレス機への移行期に一時的な需要減少が生じる見込み
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

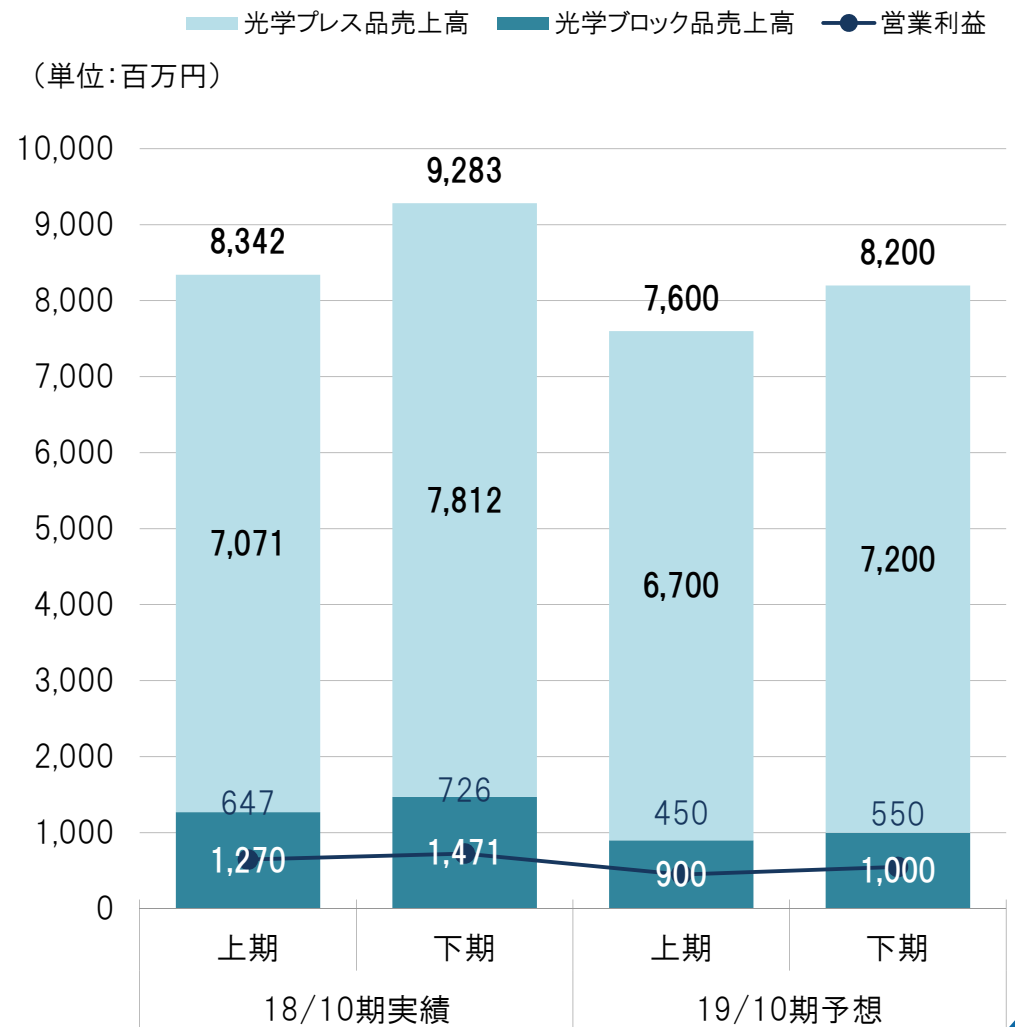
当社状況

- 光学ガラスの開発においては、引き続き競争力のある新製品の投入に努め、製品ラインアップの強化を進める
- ガラスモールドレンズ(GMo)増産のための設備が本格稼働することを受け、グループを挙げて販売に取り組み、レンズ加工品の販売比率向上を目指す

通期対比



半期推移



「ナノセラム™」の生産体制を整え、スマートフォン向けの実績を着実に積み上げる

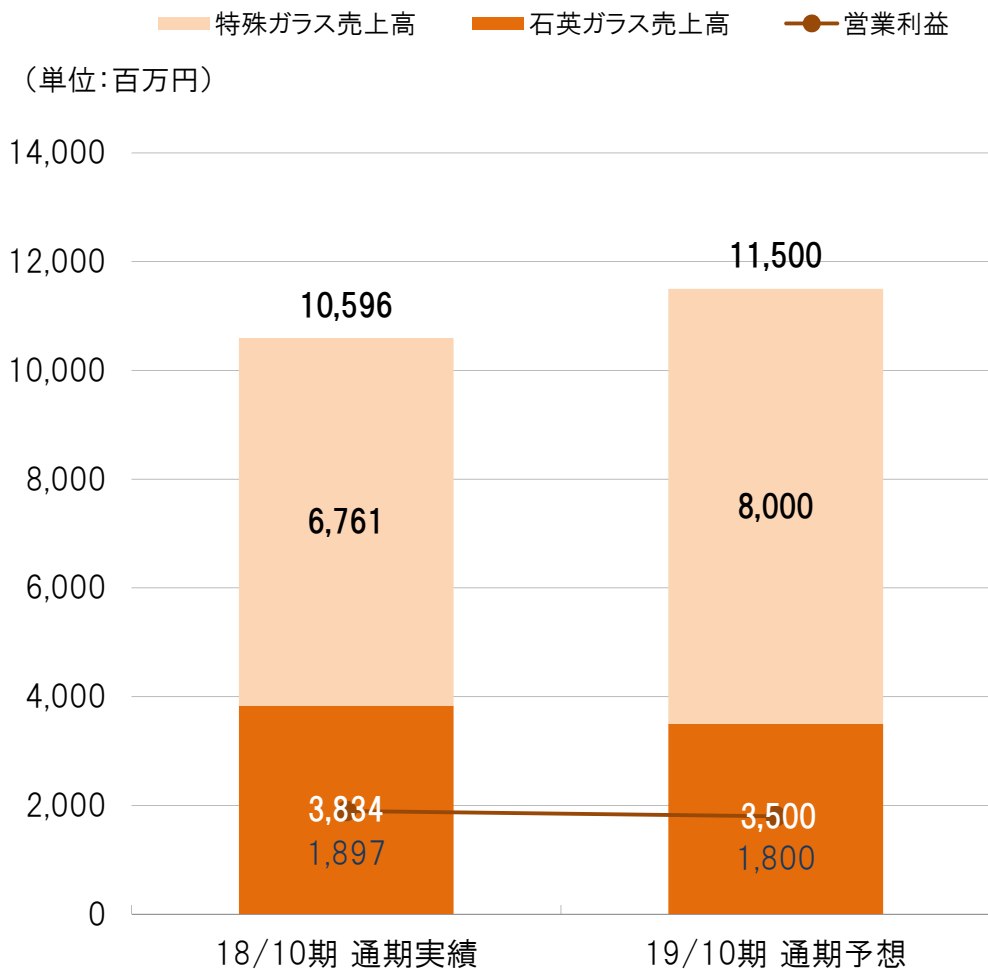
事業環境

- 露光装置は、FPD向けの一部で調整局面が続く一方、半導体向けは、米中通商摩擦の影響が懸念されるものの、堅調の見込み
- 宇宙関連産業は、需要が拡大する見込み

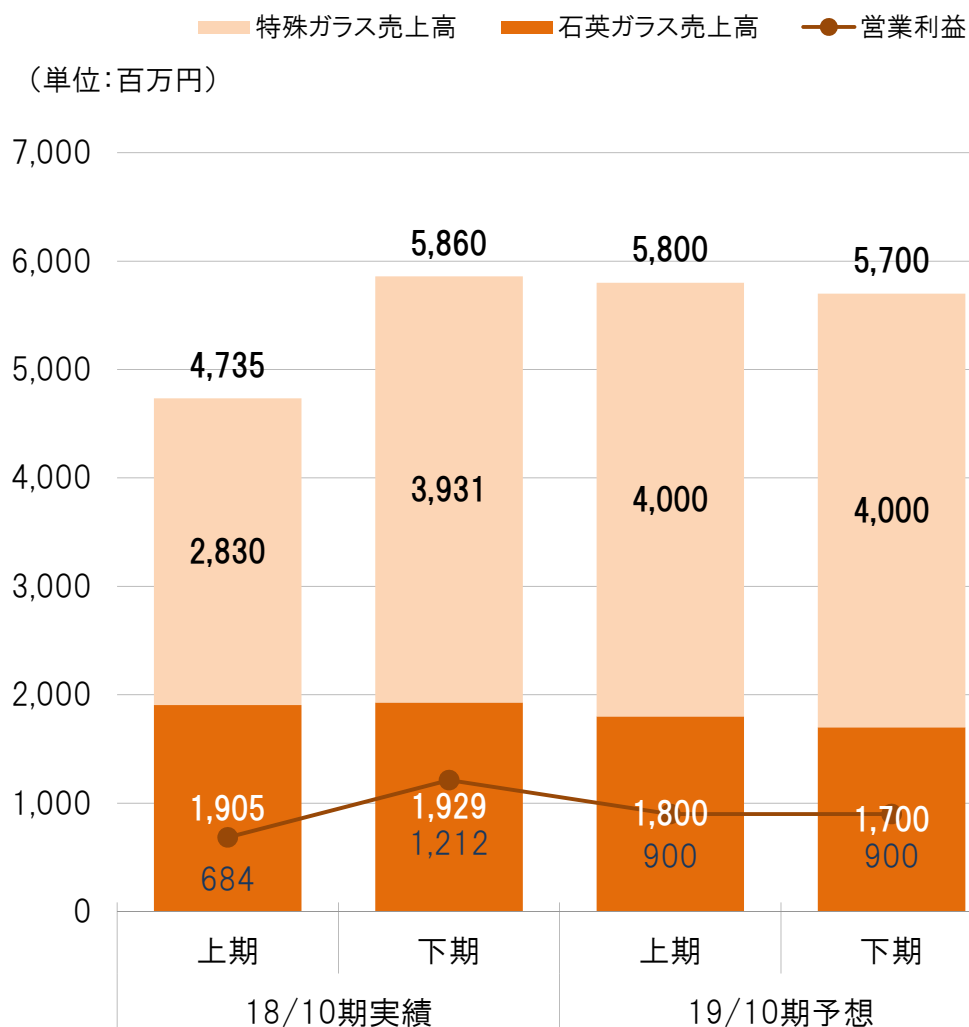
当社状況

- 「ナノセラム™」はスマートフォン向けの引き合いが増加する見込み、まずは、当初計画していた生産体制を整え、着実に実績を積み上げる
- 露光装置、光通信関連及び宇宙・天文向けについては、需要動向を的確に捉えた販売活動を行う
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」は、液系リチウムイオン電池向け添加材としての採用実績形成を進める

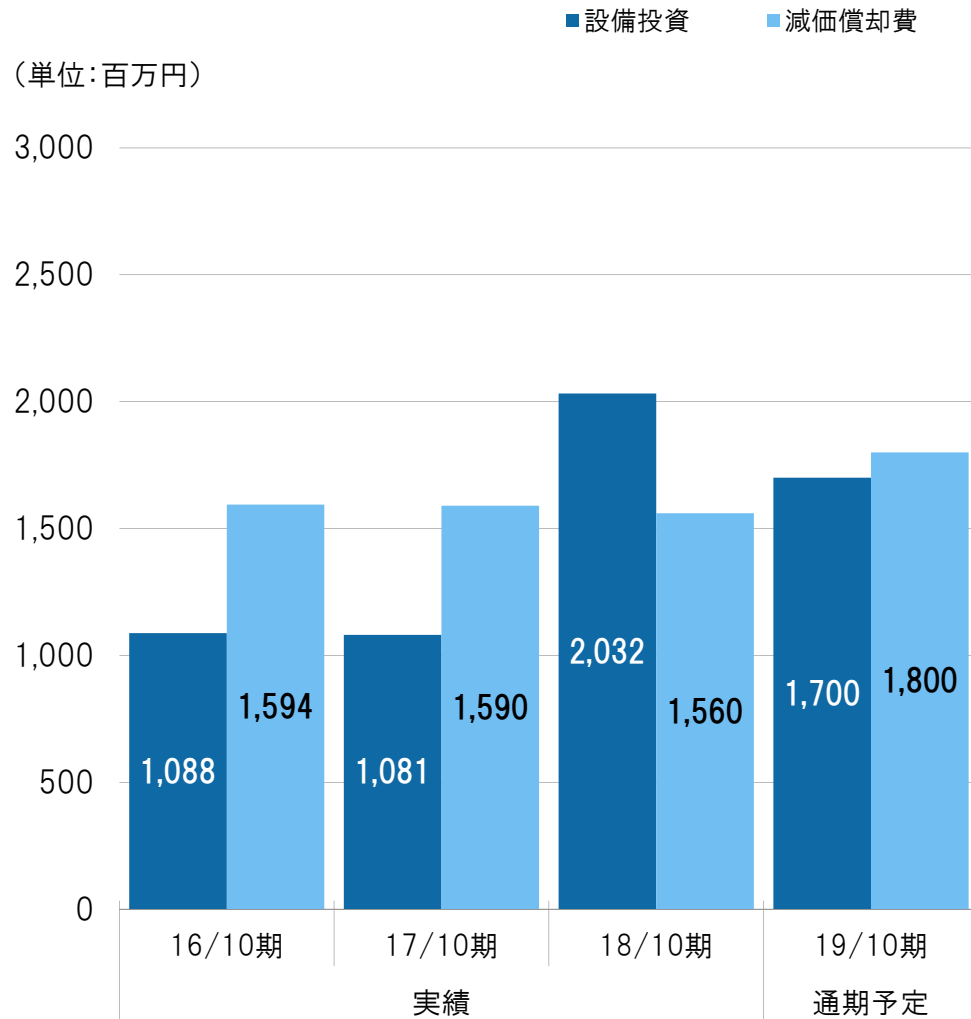
通期対比



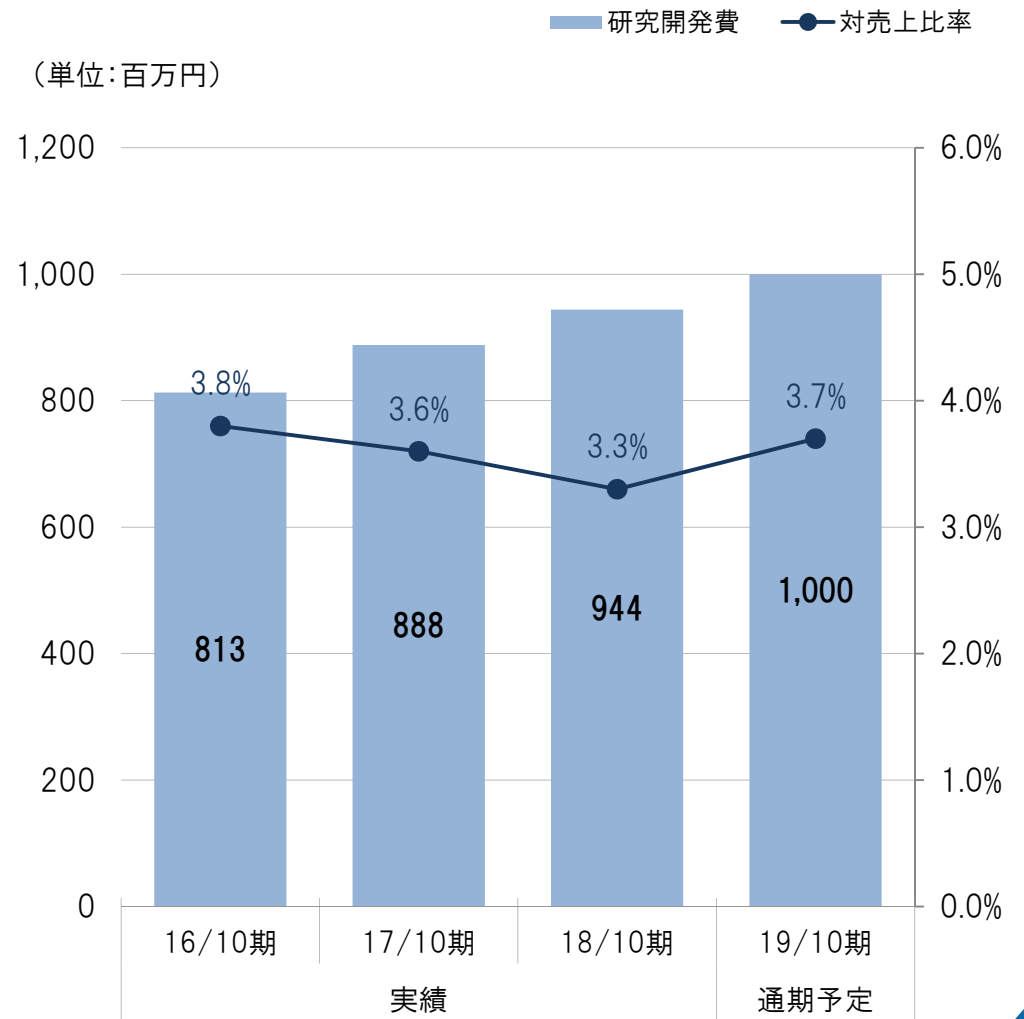
半期推移



設備投資、減価償却費

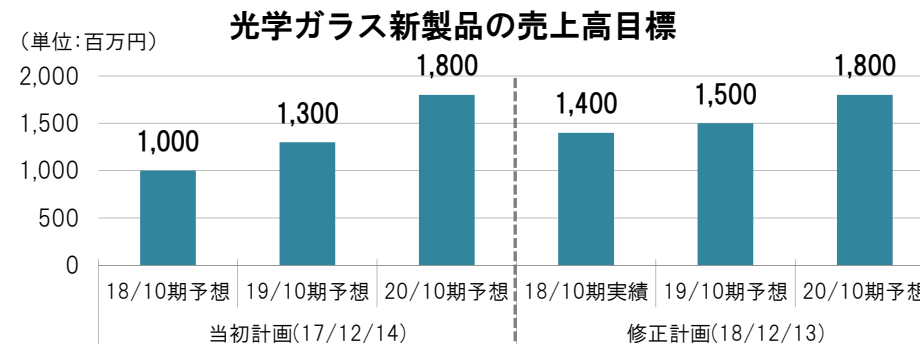


研究開発費



目標1. 光学ガラス新製品のラインアップ拡充

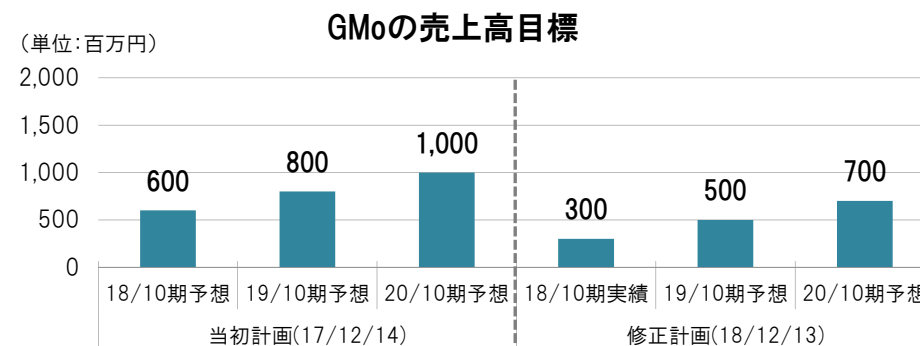
- 18/10期リリースの新製品は8種と高水準、19/10期以降もハイペースの開発を継続
- 新製品の拡販は順調に進展するものの、20/10期目標は据え置き



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

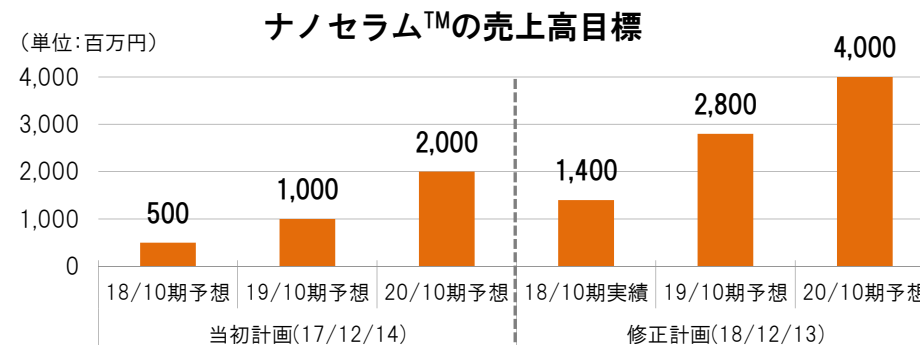
目標2. 完品レンズ「GMO（ガラスモールドオプティクス）」の加速

- 18/10期は、生産能力に限りがある中、獲得案件の生産変動により需要が減少
- 19/10期以降は、新工場稼働に伴い、獲得案件数の増加に注力するも、目標は下方修正



目標1. 「ナノセラム™」のスマートフォン本体向けビジネスの確立

- 18/10期は、スマートフォン筐体向けの量産試作が進展したことにより、目標達成
- 19/10期は、熔解炉3基体制の確立により、増加するスマートフォン向け需要へ対応



目標2. リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」事業開発

- 18/10期は、液系リチウムイオン電池の正極向け添加材のサンプルワークに注力、19/10期以降は、採用実績形成を目指す
- 全固体電池向けについては、社外研究機関との積極的な協働を通じ、実用化・上市に向けた環境整備を推進



中期経営計画の目標 (2018年12月13日修正)

経営指標(20/10期)

	当初目標 (17/12/14)	修正目標 (18/12/13)
売上高	300億円以上	300億円以上
営業利益	24億円以上	35億円以上
自己資本利益率(ROE)	5.0%以上	8.0%以上
総資産有利子負債比率	8.0%以下	8.0%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	40.0%以上	45.0%以上

※前提条件

米ドル 110 円、ユーロ 125 円

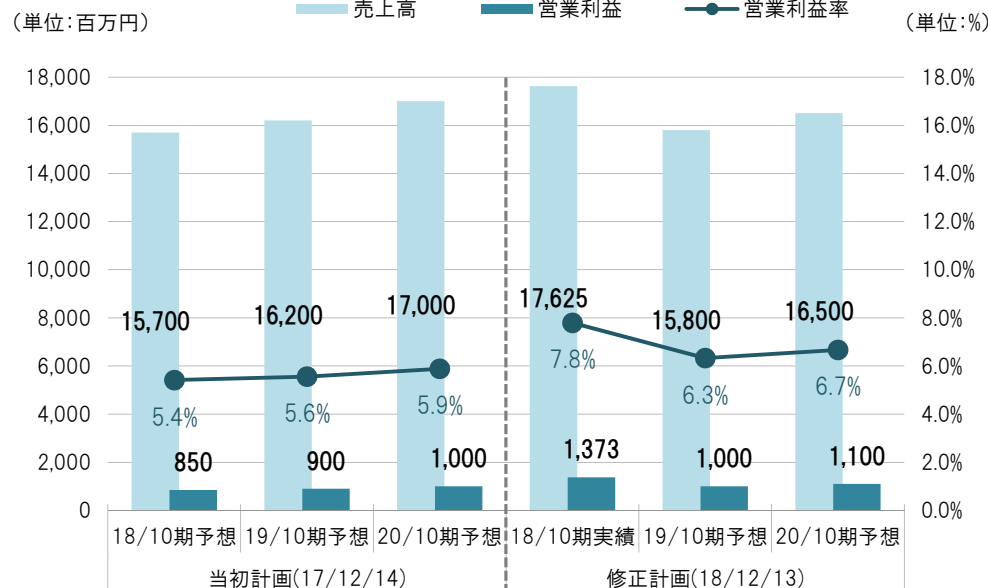
■光事業の関連市場

- ・デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により、18/10期は堅調に推移したものの、19/10期以降は伸び悩み
- ・プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

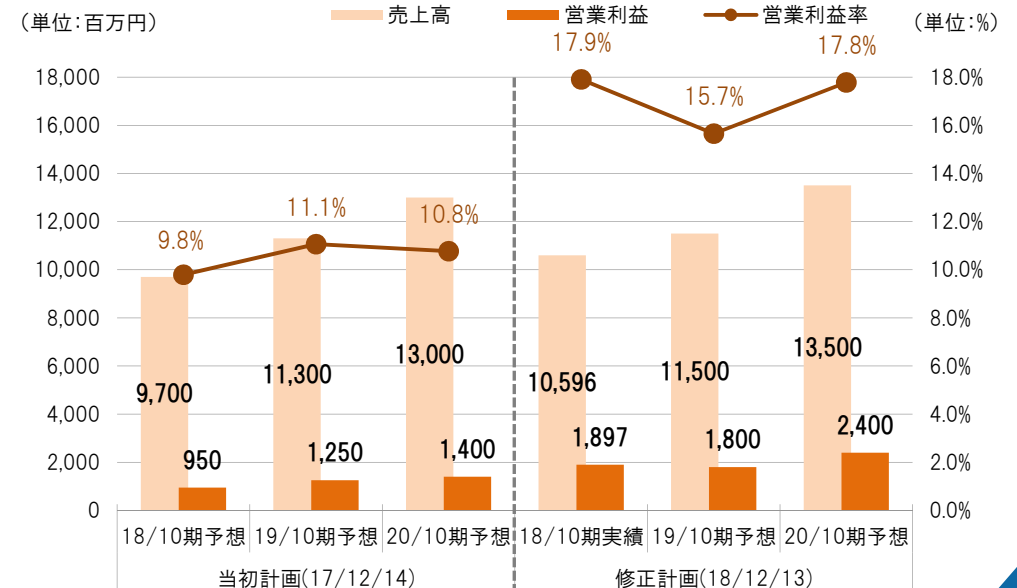
■エレクトロニクス事業の関連市場

- ・半導体露光装置の需要は引き続き好調に推移するものの、FPD露光装置及び光通信関連機器は在庫調整が続く

光事業



エレクトロニクス事業

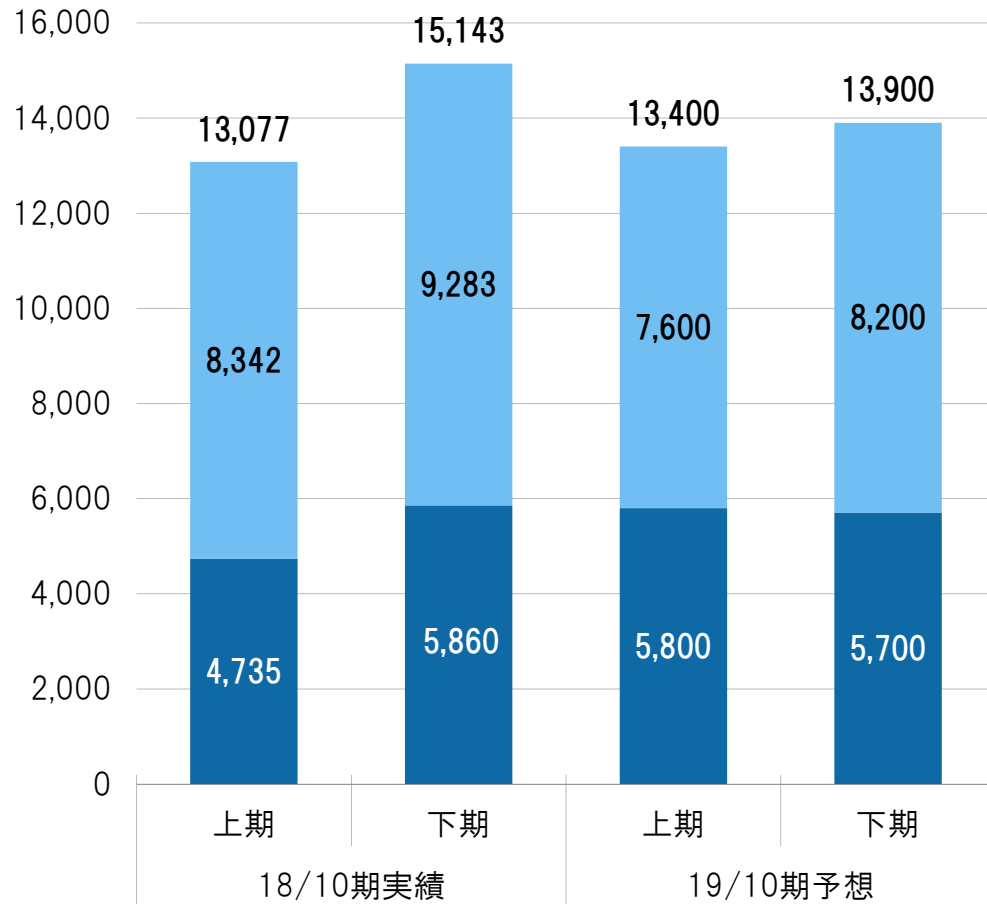


Appendix(参考資料)

売上高

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業

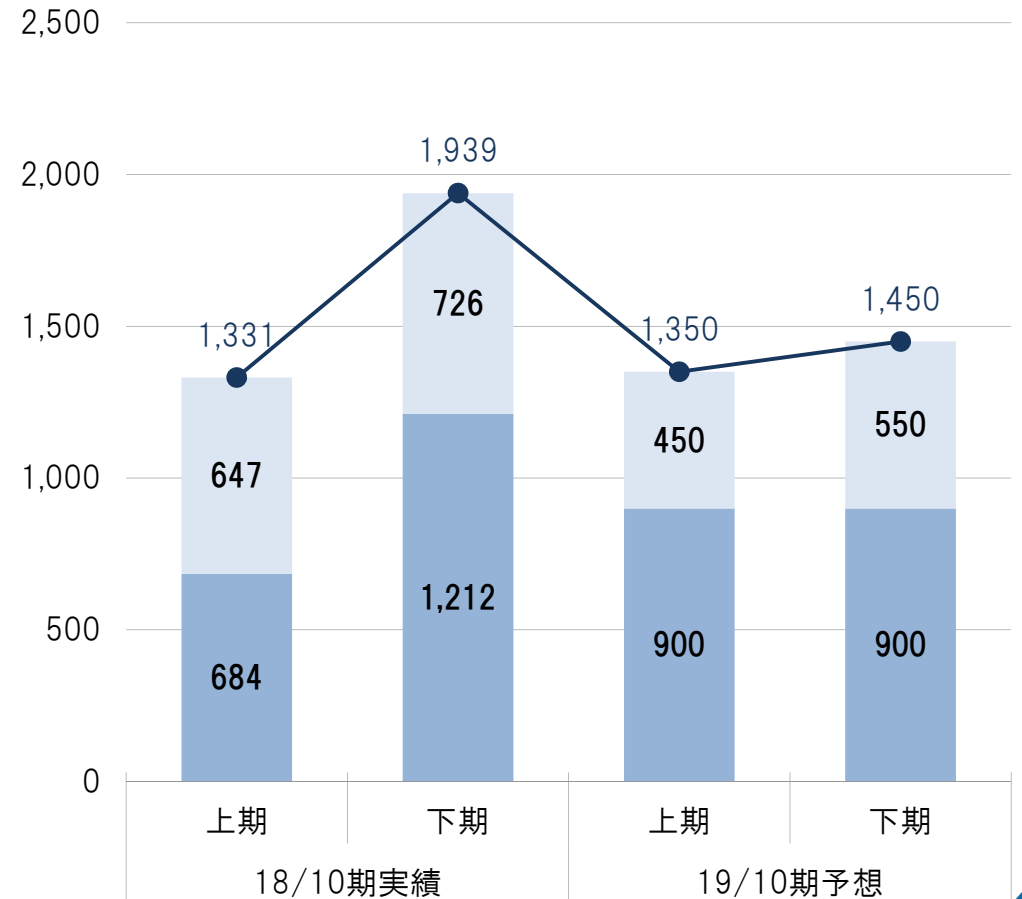
(単位:百万円)



営業利益

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業 ● 合計

(単位:百万円)



18/10期業績予想修正の経緯

通期業績

(単位:百万円)

	期首時点 予想 (17/12/14)	2Q時点 予想 (18/06/14)	3Q時点 予想 (18/09/14)	実績 (18/12/13)
売上高	25,400	26,200	27,500	28,221
光事業	15,700	16,700	17,300	17,625
光学プレス品	13,500	14,200	14,700	14,883
光学ブロック品	2,200	2,500	2,600	2,741
エレクトロニクス事業	9,700	9,500	10,200	10,596
特殊ガラス	6,200	5,900	6,500	6,761
石英ガラス	3,500	3,600	3,700	3,834
営業利益	1,800	2,700	3,400	3,270
光事業	850	1,300	1,550	1,373
エレクトロニクス事業	950	1,400	1,850	1,897
経常利益	2,000	2,900	3,800	3,705
純利益(親会社株主に帰属)	1,600	2,400	3,200	3,220
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 110.00 120.00	期中平均 110.00 120.00	期中平均 110.00 120.00	期中平均 110.46 131.13
年間配当金(円)	20.00	30.00	30.00	30.00

四半期推移

(単位:百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	6,441	6,635	7,383	7,760
光事業	4,289	4,052	4,656	4,627
光学プレス品	3,654	3,416	3,927	3,885
光学ブロック品	634	635	728	742
エレクトロニクス事業	2,152	2,583	2,726	3,133
特殊ガラス	1,173	1,657	1,742	2,188
石英ガラス	979	925	984	945
営業利益	529	802	1,109	829
光事業	348	299	528	197
エレクトロニクス事業	181	502	580	632
経常利益	540	935	1,226	1,003
純利益(親会社株主に帰属)	432	1,005	984	796

商 号 : 株式会社オハラ (OHARA INC.)
 所 在 地 : 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創 立 : 1935年(昭和10年)10月1日
 資 本 金 : 58億5千5百万円
 事 業 内 容 : 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従 業 員 : 連結1,702名(単体411名) (2018年10月31日時点)
 発行済株式総数 : 25,450,000株
 株 主 数 : 9,410名 (2018年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

(2018年10月31日時点)

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	関戸 仁	生産、技術 管掌
取締役常務執行役員	中島 隆	財務、管理 管掌 兼 管理センター長
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング、知的財産 管掌
取締役(社外)	大熊 右泰	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	小泉 達也	
取締役(社外)	内田 省寿	
常勤監査役	久保田 桂詞	
監査役(社外)	三上 誠一	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

大株主

(2018年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	648	2.7%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	321	1.3%
10	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	154	0.6%

※持株比率は、自己株式1,124千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



日本
(株)オハラ 足柄光学(株)



(株)オハラ・クオーツ (株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパー用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
4月: ISO14001認証取得
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
6月: 大規模連続熔解開始
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファ이버用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クォーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCIに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
10月: 創立80周年
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 1月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)、交換レンズ用高級フィルター「WR CERAMIC PROTECTOR」に採用
8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加

光事業

製品カテゴリ

光学プレス品



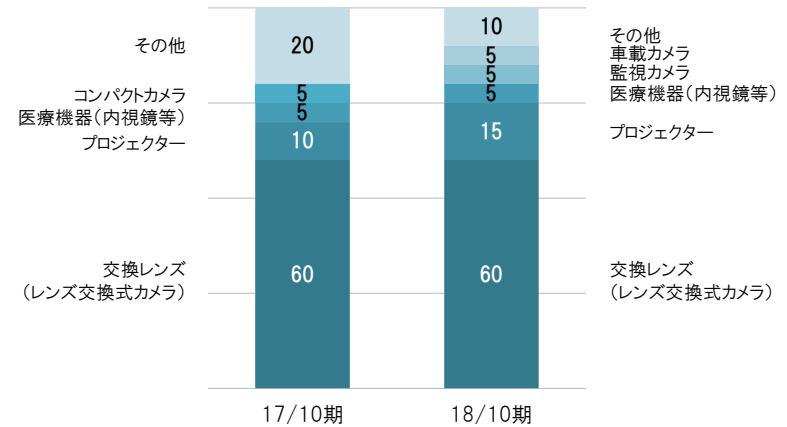
光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定

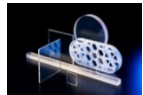


エレクトロニクス事業

製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z

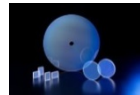


線用高均質性光学ガラス



光通信機器向けガラス素材

WMS™-15



耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス

LICGC™

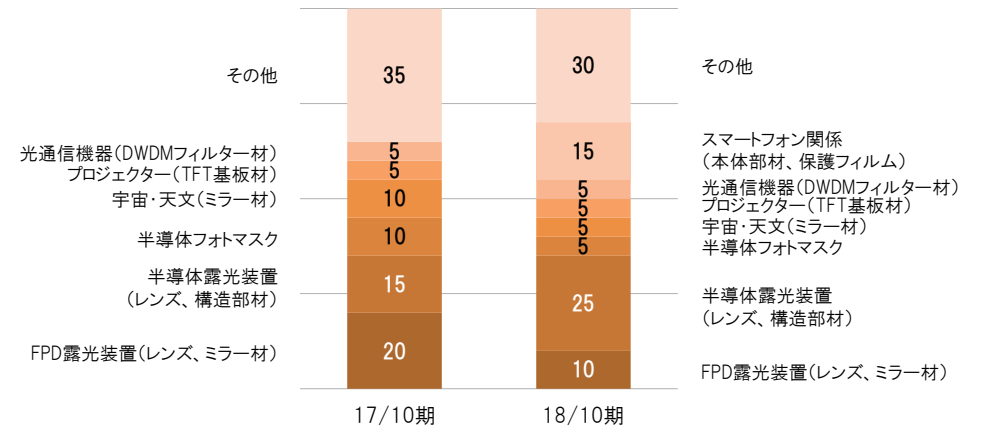


石英ガラス



売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定



光学ガラスの代表的な製造工程



経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、最高品質の先進素材を世界中に提供することで、お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

中期経営計画のキーコンセプト

再成長軌道への回帰

マテリアル + ソリューションのオハラ

ガラスを**熔解**する会社からお客様の困り事を**熔**かして**解決**する会社へ

モバイル・モビリティ市場への貢献

観る

真のニーズの探索
変化を感じる感性

解決する

提案力の強化
素材の良さを形にして見せる
サプライチェーンの巻き込み

導く

成果を上げるリーダーシップ
事業化スピードUP



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。